

〈特集〉

道内の特別支援学級及び通級による指導におけるICT活用実践

千歳市立北進小中学校の取組 (校長 野澤 孝志)

はじめに

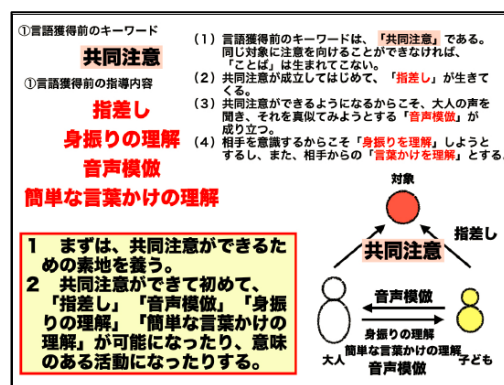
本校は、昭和35年4月に千歳市立千歳小学校の特殊学級として誕生し、町内の児童会館内で授業を開始しました。昭和37年には千歳市立千歳中学校特殊学級も併設され、昭和38年現在地（千歳市北栄1丁目2番6号）に新校舎が完成し、独立校舎を持つ全国的にも珍しい特殊学級となりました。そして、昭和46年に独立校に昇格し、千歳市立北進小学校・千歳市立北進中学校となりました。

以来、特別支援学級（平成19年4月1日、特殊学級から名称変更）のみの学校として、障がいのある児童生徒の自立と社会参加を目指し、保護者、地域及び関係機関との連携のもと、小中9年間の学びを大切にした教育活動を進めています。

1 研究の概要

本校では、「自己表現の力を育成する授業づくり～ICTの活用の可能性を探る～」を研究主題として、校内研究に取り組んでいます。

令和3年度までの研究の中で、発達段階に応じた指導の「システム化」、指導項目に対応した「フォーマット」作りに取り組んできたことを活かし授業改善を図るとともに、ICTを授業に取り入れるだけではなく、目標達成のために有効であったか、児童生徒の発達段階に結び付いた活用であったかについて検証しました。



【発達段階別の指導のシステム化（一部）】

1 授業の流れ というフォーマットとは		
同じ授業の流れにすることで、子供たちが安心して授業に参加することができる。		
次	時数	主な学習活動・内容
1	6時間 本時 (6/6)	1 「おはなしできるかな」 お出かけ編を読み取る 2 どんどこどこに行ったことがあるかを思い出す 3 どんどこどこに行ったことがあるかを伝える 4 「おはなしできるかな」 料理編を読み取る 5 どんどこ料理をしたことがあるかを思い出す 6 どんどこ料理をしたことがあるかを伝える

【「フォーマット」（一部）】

本校の令和4年度の重点目標「自分の考えをもち、表現しようとする子どもの育成～『担い』『認め合う』ことで培う自己有用感」を踏まえ、児童生徒がこれまで培ってきた力を表現する一つの方法として、授業や日常生活の中でICTを活用していけるよう取り組んでいます。

本校の研究に係り、北海道立特別支援教育センター、千歳市教育委員会ICTサポーター及び石狩教育局義務教育指導班等との連携の下、「ICTの効果的な活用について」、「他校におけるタブレット活用について」をテーマにした理論研修の開催、全教員による研究授業・授業公開等の実践交流を通して研究を推進しています。



【研究授業・授業公開の様子】

2 ICTの効果的な活用を図る研究の取組

本校の研究では、「授業・活用実践シート」を活用し、全教員が一人1事例を持ち寄り実践交流を行っています。実践交流を行うことによって、新たなICT活用の方法を発見したり、相互に教え合ったりしながら、教員のICT活用能力を高めていくことができました。さらに「授業・活用実践シート」に授業の内容の要点を記載することにより、「学習の振り返りにおける言語活動」や「共同編集を活用した協働的な学び」を意識した授業づくりをすることもできました。

千歳市立北進小中学校 情報活用能力の体系表			
想定される学習内容	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ
情報手段に慣れ親しませる	・ 支援を受けながらのログインとシャットダウン ・ 画面をタッチする ・ 充電 ・ 写真や動画を見る	・ タッチパッドを使う ・ QRコードを使ってのログイン、シャットダウン ・ QRコードを読み取る	・ 指示されたアプリケーションの選択と操作
キーボードなどによる文字の入力	・ 音声入力 ・ (支援者による) 代理入力		・ 手書き入力 ・ かな入力
電子ファイルの呼び出し・保存・整理	・ 支援を受けながら、アクセスしたファイルの自動保存	・ 支援を受けながら、Google Classroom内からファイルの呼び出し	・ ドライブ内にあるファイルの確認
インターネット上の情報の閲覧など	・ 画面上に表示されたサイトの閲覧	・ 画面上に表示された情報をタッチして好きなページへwebページ移動	・ 画面上に表示された情報をタッチして指示されたページへwebページ移動

【千歳市立北進小中学校情報活用能力の体系表の一部】

北海道立特別支援教育センターの所員が、学校を訪問し取材した実践事例について、こちらから紹介します。

実践事例提供協力者

- ・ 小学部 教諭 益山友和、鷺頭未和
- ・ 中学部 教諭 齋藤育、高見澤駿
- ・ 通級担当教諭 藤谷健太郎、山内由加里

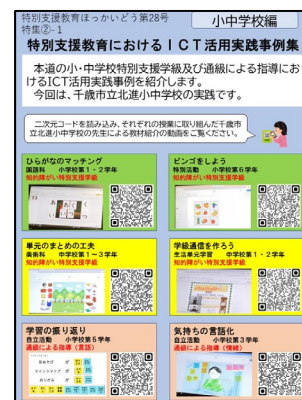
URL : http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=1075

授業・活用実践シート

名前	齋藤 育
対象児童生徒	中学部 国語齋藤グループ (ステージⅡ～Ⅳ)
対象授業	国語 「これはこ」
授業の目標	・ 教師の指示を聞いて、行動したり、応答したりすることができる。 ・ 適当なイラストや文字を当てはめて、文を作ることができる。
必要な情報活用能力	ログイン、Classroom、スライド、画面上のタッチ操作、電子黒板
授業の内容	1. 授業の目標を決める【個別】 2. PPのコミュニケーションシートを使って、仲間とコミュニケーションをとる【協働】☆表現 3. 絵本の読み聞かせを聞く【個別】 4. 読み聞かせの内容の振り返りをする【個別・一斉】☆表現 5. 物の名前の書き取りをする【個別】 6. 個別課題をする【個別】 7. 学習の振り返りをする【個別】
目標達成のためICT活用が有効だったところ	・ 適当なイラストや文を枠に当てはめることで、文を作ることができる。 ・ 文字が書けなくても、イラストを用いて文を作ることができる。 ・ 電子黒板を用いて、同じ画面を見ながら、答え合わせをすることができる。

【授業・活用実践シート】

また、本校の研究において「千歳市立北進小中学校 情報活用能力の体系表」を取りまとめました。文部科学省や北海道教育委員会から出されている「情報活用能力の体系表」を参考に、これまでの授業実践を踏まえて取りまとめ、今後の授業づくりの指標として活用していきます。次年度以降も実践事例を参考に改定していく予定になっています。



【ICT活用実践事例】

3 成果と課題

本校の研究を通して、全教員がICTを活用することにより、「学習の振り返りにおける言語活動」や「共同編集を活用した協働的な学び」など、児童生徒の自己表現する場面を意図的に設定する授業改善を図ることができました。今後は、資質・能力を育成するための、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善、充実を図るため、校内におけるICTを活用した教材の共有などを推進する必要があります。

障がいの状態が多様な児童生徒が在籍する本校において、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けたICTの効果的な活用について、今後も検証を続けていきたいと考えています。

講評「ICT活用の意図を明確にした授業改善を」

北海道立特別支援教育センター教育課主査 音羽孝文

千歳市立北進小中学校には、多様な実態の児童生徒が共に学ぶための特色ある取組が見られます。言語獲得前の児童生徒が、興味・関心の高い教材を介してやりとりの基礎を習得する指導から、就労や社会参加を見据え、状況に応じた会話や振る舞いを身に付ける指導まで、実態に応じた目標と手立てを段階別に整理し、ねらいや場面に応じてICTを効果的に活用する点や、「学習の振り返りにおける言語活動」、「共同編集を活用した協働的な学び」の成果等は、特別支援学級での指導の充実に向け大変参考になります。ICT活用の意図や場面等について、児童生徒の姿を通した検証を続けることにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が一層進展することを期待しています。